

「三種の神器」

このたびの天皇陛下のご退位及びご即位において、「三種の神器」という映像や言葉を見聞きする機会が多くありました。皇位の御印として歴代天皇が継承してきた三種の神器は「八咫鏡」^{やたのかがみ}「草薙剣」^{くさなぎのつるぎ}「八坂瓊勾玉」^{やまかしのまがたま}ですが、豊かさやあこがれの象徴として、その時代の代表的な耐久消費財を「三種の神器」と呼ぶことがあります。

1. 耐久消費財における「三種の神器」の変遷

耐久消費財に「三種の神器」が初めて使われたのは、1950年代半ばのことでした。1956年度の経済白書が「もはや『戦後』ではない」としたこの頃は「神武景気」と呼ばれた好景気の時期で、耐久消費財ブームが巻き起こりました。「白黒テレビ」「電気洗濯機」「電気冷蔵庫」が三種の神器と呼ばれ、急速に一般家庭に普及していきました。家庭に冷蔵庫がなかった頃、夏場の食品管理は大変だったでしょうね。

1960年代、時代は高度成長期に突入します。この頃は、「カラーテレビ」「クーラー」「自家用車(カー)」が新三種の神器と呼ばれるようになります。当時を知る人ならば、それぞれの頭文字を取って「3C」と言っていたことが懐かしいのではないのでしょうか。この中でカラーテレビは、1964年の前回東京オリンピック開催を契機に普及が進みました。

時代が進んで2000年代に入ると、デジタル家電が普及し始めます。特に「デジタルカメラ」「DVDレコーダー」「薄型テレビ」を三種の神器と呼ぶこともありましたが、この頃は庶民の「あこがれ」が多様化したことなどもあり、言葉としてはあまり定着しなかったようです。

それでは最近の三種の神器は何でしょうか？一般的には「ロボット掃除機」「全自動洗濯乾燥機」「食器洗い機」を指すことが多いようです。いずれも「時短」につながるものばかりで、共働き世帯の増加など、時代の世相を反映していますね。

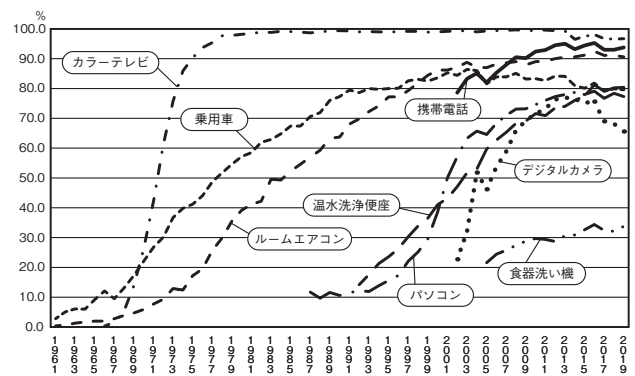
2. 主な耐久消費財の普及率の推移

内閣府「消費動向調査」から、主な耐久消費財の普及率（二人以上の世帯）の推移を表したのが図表1です。乗用車は2000年代初期をピークとして、以後は漸減傾向が続いています。給与が上がらず家計に余裕のない若年世帯を中心に、「車離れ」が起きているものと思われます。デジタルカメラも2010年以降は大きく減少しています。カメラ機能が高性能化したスマートフォン（スマホ）の普及が原因と考えられます。食器洗い機はまだ30%程度ですので、今後大きく伸びる可能性があります。

一方、電気冷蔵庫及び電気洗濯機は普及率がほぼ100%となったため、2004年を最後に同調査対象から除外されました（電気洗濯機は「衣類乾燥機（洗濯機一体型）」として一部継続）。カラーテレビ（ブラウン管）も2013年を最後に除外されました。「もはや『神器』ではない」ということです。

ところで、今後どのようなものが「新・三種の神器」になるのでしょうか？人工知能（AI）が発達し、思いもよらないものがそう呼ばれるかもしれませんね。

図表1 主な耐久消費財の普及率推移（二人以上の世帯）



※2005年以降の「デジタルカメラ」はカメラ付き携帯電話を含まない内閣府「消費動向調査」より当研究所作成

閑話ひとつ

- ▶ 令和の時代が始まりました。4月1日の新元号発表以来、テレビ・新聞などでは連日特集番組や記事が報道されました。今回の天皇陛下の退位・即位に対する国民の関心は非常に高く、この1カ月余日本列島はまさに「改元フィーバー」でした。やはり、長い歴史を持つ「元号と天皇制度」は日本人にとって特別なものであると思います。
- ▶ 海外では、5月1日は月が改まっただけなのですが、「令和」で思わぬ恩恵を受けた団体がありました。ネットで「REIWA」と検索すると、オーストラリアにある不動産業の団体（Real Estate Institute of Western Australia）の略称がヒットしてアクセスが殺到、大きなPR効果があったそうです。
- ▶ 平成は日本経済にとって試練に満ちた時代でしたが、名目GDPは平成元年の421兆円に対し、平成30年は549兆円と3割程度増加しました。一方、平成の30年間で私はどれだけ成長したのだろうかと考えてみると…(?)。確かなことは、「30歳トシをとったこと」と「体重が1割以上増えたこと」のようです。（HS）